

北海道支部 令和2年度第2回都市地域セミナーの開催報告

— 地方都市の今を語る意見交換会～観光をはじめとする交流をまちの活性化にどうつなげるか—

窪田 映子 日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. はじめに

日本都市計画学会北海道支部では、令和3年3月17日（水）に令和2年度第2回目の都市地域セミナーとして、「観光をはじめとする交流をまちの活性化にどうつなげるか」をテーマに取り上げ開催しましたので、その概要を報告します。

開催形式は支部会員を対象としたオンライン会議形式とし、参加者は20名（視聴者含む）でした。例年では札幌以外の道内地方都市での取り組みに焦点を当て、現地の関係者と支部会員の情報・意見交換の場を設けていましたが、コロナ禍の影響を鑑み、全道の支部会員に呼びかけ、オンラインによる試行的な会員同士の意見交換・交流の場としました。当日は、松田泰明幹事の司会進行のもと、地方の情報を交えながらテーマについての意見交換を行い、理解や議論を深めました。

2. テーマに関する参加者の情報・コメント

各々の支部会員の活動状況や日ごろの問題意識から、

- ・ネットによるリアルな空間の喪失
- ・まちなかの空間・核をどう作っていくか
- ・活性化のための地域間の交流の重要性
- ・ストーリーでつながるまちの交流ネットワーク
- ・まちの活性化は個人の活性化から
- ・観光：海外よりも国内、国内よりも道内という考え方
- ・地域内の暮らしを中心にした観光交流

といった様々なキーワードが提示されました。

3. 意見交換

テーマに基づいた観光・活性化の内容では、今後の伊達や余市、空知での展開が期待されるワイナリーによる地域に根ざした食や物販、体験の交流と周遊アクセス交通の在り方、胆振、後志、日高、十勝で展開が期待されるサイクルーツリズムなど自然を生かしたスポーツ・アクティビティ参加と結びつけた交流、世界遺産など歴史的な資源と体験等アクティビティと結びつけた交流などについて話題にあがりました。

また、観光・交流におけるバーチャルとリアルの関係について、これまでの「モノ」の消費から「時」を共有して過ごす交流が重要になってきていることから、動画配信の情報やネットでのサークルを入口に、リアルな観光に結び付けていくことが今後重要になっていくといった意見が上がりました。

4. おわりに

以上のように全体として様々な視点から情報・話題提供をいただき、会員相互の意見・情報交換の方法として意義があったと感じています。今後は、地方にいる方、地方を行き来している方と、大学の先生等有識者との情報交流をさらに進め、支部活動を深化させることの必要性も確認されました。

また、参加者がより円滑に議論を深めていくための画面情報やリアクションの共有方法のルール化など、リモート環境のさらなる改善についてもいくつか知見が得られた大変有意義なセミナーでした。ご参加の会員各位に厚く御礼申し上げます。

▼リモート会議のようす

